

一般質問に6人が登壇

議員本人が要約して掲載しています



石川康弘 議員

Q 道央圏道路開通に向け交通対策を

A 警察署と連携して行っていく

石川議員

道央圏連絡道路中樹林道路は、供用開始に向け現在工事が進められています。沿線住民が心配しているのは通行ルート変更による交通事故と渋滞の問題です。特に大型トラックが大量に15線道路を通過することとで、とても混み合う可能性があり周辺道路が混雑することが予想されます。その為には車の流れを妨げることにならないよう、右折レーンの設置が必要だと思えます。さらに信号機の設置も考えるべきではないでしょうか。

町長

中樹林道路の開通により本町への交通アクセスが向上し、交通や人の流れが大きく変わり、本町の活性化につながるものと期待する所です。

交通対策については、町民に対して供用開始に向けた情報提供を行うとともに、栗山警察署と連携した交通安全啓発運動や通学路の安全確保を協議していきます。

12号道路は、15線から19線界橋まで令和5年度から2力年で車道路肩拡幅工事を行い、軟弱地盤対策や道幅を全体で2・5m拡幅する予定です。

15線道路は設計段階で、南幌ランプ降り口の信号機設置を要望していましたが、北海道開発建設部と道警の協議により、現在の交通量を踏まえると信号機の設置には至らず一時停止交差点となっています。右折レーンの設置は引き続き要請して参ります。



●まちづくり特別委員会最終報告●

まちづくり特別委員会は、南幌町の現状と今後のあり方についての総合的な調査研究に かわる事務を目的として、令和元年6月13日に設置され、令和5年年4月26日までの任期中45回委員会が開催され、議会基本条例の制定、町民による議会評価提言者制度の導入など、開かれた議会を目標に協議をいたしました。



まちづくり特別委員会のまとめ

まちづくり特別委員会では、南幌町が地域力を試される時代にあることを認識し、わが国の人口減少や少子高齢化社会をいかに乗り越えていけるかが課題と捉えているが、幸い南幌町では、子育て世代への住宅建築費助成事業等の施策により人口の減少は止まり、若干ではあるが、人口の前年比では増加傾向が見られている。今後も、地方創生の実現に向けた産官民連携の必要性とその方向性を示し、「住んで良かった」と実感できる町づくりのため、今後においても議会で議論を重ねなければなりません。

町議会は、常に町民との対話を通じ、より良い町づくりに取り組んでまいります。

Q 行政デジタル化への対応は



西股裕司 議員

A 必要に応じ専門部署の設置等を検討



西股議員
本町のデジタル化の推進について執行方針では、国の※DX推進計画を踏まえ、手続きのオンライン化に取り組みとしています。南幌町においてもマイナンバーカードの普及推進に取り組んでおり、インターネット等による行政情報の提供、町民や企業等と自治体間の手続きの電子化、※ワンストップサービスの実現等への取組を具体的なものとしていますが、今後どのように対応していくかと考えているか伺います。

①デジタル化に対応すべく、担当部署の設置の考え

町長

①「自治体情報システムの標準化・共通化」に向け、総務課が担当し、システム事業者や各担当課と連携を図りながら作業を進めていることから、現時点で専門部署の設置は考えていません。

西股議員

②DX推進のため、国では外部からの人材登用も視野に入れる旨の案が出されているが、町としての考え

町長

今後においては、庁舎内に検討会議を設置し、行政サービスなど町民の利便性の向上に向け調査・研究を行い、必要に応じてデジタル推進専門部署の設置や外部人材の活用について検討します

西股議員

③行政手続きを簡素化しようとしているが、現在、デジタル機器を所有しない方、独居高齢者及びパソコン・スマホが操作できない方々への対応はどのように考えているのか。

町長

デジタル化による利便性向上の啓発を行い、デジタ

Follow-up ～追跡調査～

あの質問どうなった!?

～町立病院経営について～

かねてより赤字経営（一般会計繰入率が高い）が続く町立病院を、いかにして改善すべきかを議会では長年に渡り何度も協議してきました。町は外部から経営診断を受け何度も経営改善に取り組んできましたが、なかなか成果として現れるには至りませんでした。そこで町は平成29年から「病院改革プラン」を策定し、病院機能の見直しや病院経営の改革に総合的に取り組むとしたのですが、議会では4半期ごとに病院経営状況の報告を求め、意見を述べることにしました。

町立病院は、地域医療構想を踏まえ療養病床の転換や病床数の削減、町保健福祉課と連携した包括ケアシステムで在宅医療を実施、診療科を「総合内科」とし電子カルテの導入をしました。これにより、ここ数年は前年以上に患者も増え経営は改善されてきていますが、新型コロナウイルスが収束してからの経営がどうなるかはまだ判りません。



ル機器の使用を促すとともに、機器の操作や活用には不安がある高齢者等に対しては、国の地域連携型デジタル活用支援推進事業を活用した、スマホ教室の開催など、不安解消に向けた取り組みを進めていきます。

※DX（デジタル・トランスフォーメーション）→デジタル技術で社会や生活の形を変えること。
※ワンストップサービス↓複数の場所や担当に分散していた関連する手続きなどを一カ所でまとめて提供するようにしたもの。

Q 持続可能な行政運営による 信頼づくりとは



熊木恵子 議員

A 協働のまちづくりに 取り組んでいきます



さわやかカレッジ スマホ教室の様子

熊木議員

執行方針で掲げられている協働によるまちづくりとは具体的にどのようなことをいうのか。「地域担当職員制度」や「職員出前講座」は今までも実施している。行政懇談会については開催するのか伺います。

また、今後のまちづくりについて、町民の声を聞くことが重要ではないか。町長が率先して町の未来を語ることでできる場、町民の声に寄り添いまちづくりを語ることができる場の創設が必要と思うが考えを伺います。

町長

「協働によるまちづくり」は、町民と行政が協力しな

がら、よりよいまちづくりを実現することを目的として、各種事業を実施していきます。「職員出前講座」については講座メニューの見直しを図っています。行政懇談会は令和5年度実施を予定しています。町民のみならず、今後の対話の場である「故郷ふれあいミーティング」など様々な機会を通して町民の声を聞き、協働のまちづくりに取り組んでいきます。



昭和56年水害の様子
昭和56年 水害

Q 住宅リフォーム助成事業の 拡充について

A 補正予算による増額は行わない

熊木議員

良好な住環境を保つことを目的として平成27年度から実施し、助成金交付件数は281件、工事費は総額4億359万円、助成金は6136万円となっております。町内の登録事業者の事業継続、後継者育成の場としても、町の活性化に大きく貢献しています。

工事費の20%が限度額で助成金上限が30万円となっているが、建設資材の高騰により工事費が引き上げら

れると思うが上限額の引き上げはしないのか。

以前のように補正予算により対応し、一人でも多くの町民の要望に答えるべきではないか。

また、町内の事業者が安心して町内で事業を続けられるよう補助金額の拡充の考えは。

町長

「住宅リフォーム助成事業」「中古住宅購入助成事業」「空き家解体助成事業」の3本の事業を本町の住宅ストックの一体的な取り組みとして実施しています。特別交付税などの財源措置がなくなつたことから補正予算対応をやめ、当初予算の範囲内で事業を継続しています。

なお、今年度増額計上していることから、補正予算による増額を行う考えはありません。



佐藤妙子 議員

Q 健康マイレージとウォーキングマップの導入は

A 健康増進に取り組む

佐藤議員

南幌町は現在、健康ポイント事業などの取り組みを行い、成人保健対策を推進し、町民の健康づくりを後押ししています。特に、健康促進へのPRや、継続的に健康づくりに取り組んでもらうことが重要です。普段、忙しくて自分の体を気遣えない方、健康に関心が薄い方などは、潜在的にリスクが高く、病気の早期発見が遅れがちです。また、

一度は検診や健康イベントに参加しても継続して参加することが苦手と感じる方が多くいます。

そのような問題を解決するために、「健康マイレージ制度」を導入する自治体が増えていきます。「健康マイレージ制度」とは、健康イベントに参加したり、健康診断を受けたりすることで、ポイントを受け取り、一定のポイントが溜まると地元商店の割引券や物産品



と交換できる制度です。楽しみながら健康増進に取り組むことが可能となり、長期的な医療費の削減と地域活性化の観点から、これまでの健康ポイント事業をさらに拡大したこの「健康マイレージ制度」の導入が必要と考えますが、町長に伺います。

また、誰もが参加しやすい健康促進の取り組みとして、歩くことで健康を考えた方が増えてきました。町内ウォーキングマップを作成したり、目標歩数やコース設定するなど、歩きたくなるまちづくりについての考えもあわせて伺います。

町長

本町では、現在、国民健康保険加入者を対象とした「健康ポイント事業」を実施しており、健康づくりへの動機付けを促進し、健康に配慮した生活習慣を身に付けるきっかけ作りになっています。

今後は、対象を成人期以降の全町民への拡充と、対象事業メニューや交換できる特典ポイントの見直しなど、先進事例を参考に「健康マイレージ制度」の導入



について検討してまいります。また、ウォーキングは、幅広い年齢の方が手軽に取り組める運動であり、生活習慣病の予防だけでなく介護予防にも効果的であることから、遊歩道などを活用したコースの設定やマップの作製など、ウォーキングを通じた町民の健康増進に取り組んでまいります。

Q SDGs 未来都市選定への応募考えは



内田恵子 議員

A 現時点での応募は難しいと考えます

内田議員

2030年にSDGsの目標の達成の期限を迎えますが、そこから先も地球と共存できるよう行動していかなければなりません。その活動の中心となる子どもたちを行政や地域のパートナーシップで育むことが大切と考えます。子ども室内遊戯施設「はれっば」のオープンも間近となりました。ただ遊ぶだけでなく、未来に伝えたいことなど、町が子供たちと一緒に考え、進める施設であるべきではないでしょうか。ゼロカーボン宣言、更に令和6年度より東町において、ゼロカーボンモデル団地の展開は、国や北海道、企業、町がSDGsのゴール17、



本年度改修する中央公園大型滑り台

パートナースhipで目標を達成しように当てはまり、連携により新たな情報も得られると確信しています。そこで3点伺います。

①SDGsの活動を推進するため、SDGs未来都市選定事業への応募の考えは。

町長

①現時点では「SDGs未来都市」への応募は難しいと考えます。当面は、「地球温暖化対策実行計画」に基づき、ゼロカーボンに向けた取り組みを進めます。

内田議員

②町と子供たちが一緒にSDGsについて考え学べる場が必要と思うがその考えは。

町長

②子供室内遊戯施設「はれっば」における、子どもたちを対象としたSDGsをテーマとしたイベントの開催など学べる場の提供を検討します。

内田議員

③地域住民に迷惑がかからないよう施設周辺の環境、ゴミ対策は。

町長

③啓発及び指定管理者との連携促進を図ります。

議会の動き

全員協議会

1月26日

- 町立病院の経営状況について
- 建築条例、立地適正化計画について
- 準工業用地整備計画について
- 中央公園トイレ整備について
- 南幌温泉改修等について
- 移住体験住宅について

2月22日

- 町立病院経営強化プランについて
- 特定都市河川について
- 第4次南幌町地球温暖化対策実行計画について
- 子育て世代建築費助成事業について
- 路線バスの運行について
- 子ども室内遊戯施設について
- 第3次行財政改革実行計画について
- 財政推計について
- 第5次定員適正化計画について

3月24日

- 新型コロナウイルスワクチン予防接種について
- 住民票コンビニ交付について

委員会活動

◆総務常任委員会

1月26日

- スマホ教室の開催状況について

3月16日

- 議会報告懇談会のまとめ

◆産業経済常任委員会

1月26日

- 2月開催の議会報告懇談会について

3月16日

- 議会報告懇談会のまとめ

◆議会運営委員会

2月28日

- 定例会の運営について

3月3日

- 議会評価提言者会議

◆南幌町議会まちづくり特別委員会

1月26日

- 議会報告懇談会について

2月2日

- 南幌町議会報告懇談会について

2月13日

- 南幌町議会個人情報保護条例の制定について

2月13日

- 南幌町議会報告懇談会について

3月15日

- 議会まちづくり特別委員会最終報告について

- 南幌町議会報告懇談会のまとめについて
- オンライン会議について



加藤真悟 議員

Q 地域におけるスポーツ振興と環境整備について

A 現状や課題を共有し スポーツを楽しむ環境の充実に努めます

加藤議員

現在、南幌町は移住定住の政策が実りはじめ、人口増加という希望の光を灯すことができず。若年層が増加している現在、学校教育のほかにもスポーツを通じて一人ひとりが健やかに元氣よく育つてもらうために環境づくりを整えることは重要であると考えます。

我が町においてスポーツ少年団や同好会などは、空知管内はもとより全道、全国で活躍する成果を上げており、他市町村に比べても



遜色のない素晴らしい人材がいることは事実であり、この輝いている子どもたちを、さらに後押ししてよりよい環境を整えることで、町のイメージアップにもつながるのではと考えます。そこで教育長に質問します。

①今後の南幌町のスポーツ指導における人材不足の問題や課題点、展望については。

教育長

①新たな指導者の加入もあり、現時点において、各少年団の指導者の人材不足は無いものと認識してまいります。

加藤議員

②学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドラインというものがスポーツ庁より示されており、南幌町としてどのように考えていくのか。

教育長

②北海道の計画案が示された後、文化活動を含め、スポーツ少年団本部やスポーツ協会などの関係者による現状や課題の整理をしながら、生徒が部活動を継続していくために必要な運営体

制や、練習環境などについて協議を行っていく。

加藤議員

③町内スポーツ施設や用具の更新などを含めた環境整備を行っていく考えは。

教育長

③教育施設長寿命化計画に基づき令和5年度において、大規模改修工事を予定しているスポーツセンターをはじめ、社会体育施設が安全にスポーツを楽しむことができる環境の整備に努めるとともに、スポーツ用具についても適宜更新を行い、適切な維持管理を行ってまいります。

議会評価提言者会議を開催

子ども室内遊戯施設「はれっば」と大型滑り台建設現場

